

芸術科（音楽Ⅰ） 学習指導案

日 時 令和3年10月20日（水）6校時
場 所 鹿児島県立奄美高等学校 音楽室
対 象 1年家政科 音楽選択者（15名）
指導者 友利翔子

1 題材 弦楽器の魅力を味わおう

教材 「ディヴェルティメント K.136」（モーツァルト作曲）
「ジゼル」（アダン作曲）
『動物の謝肉祭』より「白鳥」（サン＝サーンス作曲）
『動物の謝肉祭』より「象」（サン＝サーンス作曲）
「きらきら星」（フランス民謡）
「エトピリカ」（葉加瀬太郎作曲）
「メリーさんの羊」（アメリカ民謡）
『交響曲第9番第4楽章』より「喜びの歌」（ベートーヴェン作曲） 他

2 題材について

(1)題材設定の理由

1学期は、校歌やドイツ歌曲など、歌唱を中心に取り組んできた。2学期は、器楽の学習を通して、より幅広い分野の音楽に触れさせたいと考えた。

これまでの教育活動の中で、音色は耳にしたことはあっても、実際にヴァイオリン属の弦楽器（＝擦弦楽器）に触れる機会はめったになく、関心は大きいものではないだろうか。

擦弦楽器の中でもヴァイオリンは、ポジションも取りやすく、さほど大きな力も要さず美しい音色を奏でやすい楽器であるため、弦楽器に触れる機会として適した題材であると考えられる。ヴァイオリンならではの華やかで繊細な音色をつくり出せる喜びや、全員でアンサンブルをすることで生まれる一体感を味わうことで、ヴァイオリンの魅力を感じ取ってほしいという思いから、本題材を設定した。

(2)生徒の実態

大変明るく、授業に活発的に取り組む生徒が多い。前回行ったギター学習においても、夢中で楽曲演奏に取り組み、お互い教え合う場面も見られた。ヴァイオリンに触れるのは全員初めてで、演奏することを楽しみに感じている様子である。

(3)指導にあたって

演奏のみならず、弦楽作品等の鑑賞を通して、ヴァイオリン以外の擦弦楽器の音色への興味・関心も引き出したい。

ヴァイオリンの構え方や弓の持ち方に注意し、安定したボウイング（＝弓の上下運動）で演奏できるよう、使用する楽曲は、生徒が無理なく演奏できるような難易度のものとし、ヴァイオリンを演奏することの楽しさや音色の魅力を感じ取らせたい。

練習は基本的にペアで行い、他者の演奏を聴き、意見交換やアドバイスをさせながら指導を進めていく。

3 目標

- (1) ヴァイオリンの奏法や音色に関心を持ち、意欲的に活動を行う。
- (2) 正しい音程の取り方やボウイングなどの奏法、お互いの音を聴き合うなどのアンサンブル活動における必要な技能を身につけ、音色や響きを感じ取りながら演奏する。
- (3) 擦弦楽器のさまざまな奏法や音色と、それらが生み出す表現上の効果を味わいながら鑑賞する。

4 評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
弦楽器の奏法や音色などに関心を持ち、意欲的に活動に取り組んでいる。	①楽曲の旋律の特徴を理解し、さまざまな奏法を音楽表現に生かそうとしている。 ②他者の音を聴きながら、アンサンブルの仕方を工夫している。	①左手のポジションを正しく押さえ、音程に注意しながら演奏できる。 ②肘や手首の使い方を意識し、安定したボウイングで演奏できる。	弦楽器のさまざまな奏法や音色、それらが生み出す表現上の効果を味わいながら鑑賞している。

5 指導計画（全8時間）

時	教材	学習内容	評価規準
1	「ディヴェルティメント K.136」 「ジゼル」 『動物の謝肉祭』より「白鳥」 『動物の謝肉祭』より「象」	・ヴァイオリンの構造や各部名称を知る。 ・各楽曲を鑑賞しながら、擦弦楽器の種類（ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス）の特徴（奏法、音色など）を知る。	ア、エ
2	「きらきら星」	・ヴァイオリンの正しい構え方を身につける。 ・ピチカート奏法（弓を使わず弦を指ではじく奏法）を用いて、左手のポジションを正確にとり、正しい音程感覚を養う。	ア、イ①、ウ①
3～4 (本時4)	「エトピリカ」	・弓の扱い方と正しい持ち方を身につける。 ・正しいボウイング奏法を身につけ、楽曲表現に生かす。	ア、イ①、ウ②
5～7	「きらきら星」 「メリーさんの羊」 「喜びの歌」 他	・既習事項を生かし、楽曲演奏に取り組む。 ・互いの音を聴き合い、ハーモニーのバランスを意識しながらアンサンブル活動に取り組む。	ア、イ①②、ウ①②
8	同上	・学習の振り返りとして、実技テストに臨む。	ア、イ①、ウ①②

6 本時 (4 / 8)

(1)目標

正しいヴァイオリンの構え方とボウイング奏法を身につけ、曲想に合った音楽表現をすることができる。

(2)実際

過程	時間	学習活動	指導上の留意点
導入	5	1 前時の振り返りをする。 ・ヴァイオリンの構え方 ・弓の正しい持ち方 ・開放弦の音程 (G,D,A,E)	・前時での既習事項を、ペアで確認させ合う。
	2	2 本時の目標を確認する。 正しいボウイング奏法を身につけ、「エトピリカ」の伴奏パートを演奏しよう。	・「エトピリカ」を聴き、楽曲のイメージを持たせる。
展開	15	3 正しいボウイング奏法を身につける。 ①弓と弦の角度が常に垂直になるようキープする。 ②弓は常に駒と指板の中央を通る。 ③弓の先端から根元まで幅広く動かす。	・正しいボウイング奏法をするための3つのポイントを提示し、ペアで確認させ合う。 (ア, ウ②)
	15	4 「エトピリカ」の伴奏パート (8小節) を練習する。	・楽譜記載のダウン(□)とアップ(∨)の記号に注意しながら練習させる。 ・「エトピリカ」の曲想に合った弾き方を意識させる。 ・ペアで確認させ合う。 (ア, ウ②)
終末	7	5 葉加瀬太郎の演奏映像に合わせて、「エトピリカ」の伴奏パートを演奏する。	・3の「3つのポイント」や、曲想に合った弾き方を意識しながら演奏するよう促す。 (イ①, ウ②)
	6	6 楽器を片付ける。	・正しい楽器の片付け方に留意し、ペアで協力して行わせる。

芸術科（音楽Ⅰ）学習指導案

日 時	令和3年12月8日（水）3校時
場 所	鹿児島県立奄美高等学校 音楽室
対 象	1年3,4組 音楽選択者（15名）
指導者	友利翔子

- 1 題材 音楽の要素とイメージをつなげよう
教材 組曲『動物の謝肉祭』（カミーユ・サン＝サーンス作曲）

2 題材について

(1)題材設定の理由

音楽教育の分野のうち「鑑賞」は、曲に興味を持たない、眠たくなるなど、多くの生徒達に特に苦手意識を持たれやすい分野の一つである。

生徒たちはこれまでの授業の中で、ミュージカル映画の視聴や器楽演奏の相互評価などを通して、鑑賞活動を行ってきた。また、教育現場に限らず、音楽は日常に溢れ、YouTubeなど、お気に入りの音楽を手軽に聴くことが出来る便利なツールもある。そういった意味で音楽は身近な存在であり、「音楽鑑賞」を娯楽の一つとして捉える生徒も多くいる。

しかし、その音楽のよさや美しさ、個性などを感受する瞬間はあっても、それに対して分析をし、根拠をもったり言葉で表現したりすることはなかなか難しいうえ、そのように音楽を鑑賞する生徒はほほいなのではないだろうか。

今回はフランスの作曲家サン＝サーンスが作曲した、組曲『動物の謝肉祭』という、生徒達にも馴染みやすい「動物」をモチーフとした作品を扱う。クラシック音楽は格式高いというイメージを持たれやすいが、この『動物の謝肉祭』は、あらゆる動物の特徴をさまざまな楽器で見事に表現した面白くユニークな作品であるため、クラシック音楽を学ぶのに適した一曲であると考えられる。

作曲者が楽曲に込めた思いや意図、音楽表現の工夫とそれらによって生み出される楽曲の魅力味わってほしいと思い、本題材を設定した。

(2)生徒の実態

学習態度は全体的に良好で、積極的に音楽活動に取り組もうとする生徒が多い。つまづいているクラスメイトに声を掛けたり、互いに意見交換をしたりする場面もよく見られる。

(3)指導にあたって

今回の授業では、作曲者が楽曲に込めた音楽表現の工夫などを言語化する活動を、グループ単位で行う。リーダー役の生徒にグループを先導させ、活発的な言語活動を行えるようにするため、グループ編成にはとくに留意したい。また、音楽の感じ方や捉え方に不正解はないということを伝え、互いの意見を尊重することも忘れずに取り組ませたい。

3 目標

- (1) 楽曲に関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。
- (2) 楽曲の速度、音色、リズムなどを知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じながら、楽曲について思いや意図を持ち、言葉で表現する。
- (3) 各楽曲の速度、音色、リズムなどを知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じながら、楽曲のよさや美しさを創造的に味わって鑑賞する。

4 評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	エ 鑑賞の能力
楽曲に関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。	各楽曲の速度、音色、リズムなどを知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じながら、楽曲について思いや意図を持ち、言葉で表現できる。	各楽曲の速度、音色、リズムなどを知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じながら、音楽のよさや美しさを創造的に味わって鑑賞している。

5 指導計画（全2時間）

時	学習内容	評価規準
1 (本時)	○ 組曲『動物の謝肉祭』より「亀」,「大きな鳥かご」,「カンガルー」の3曲を鑑賞する。 ・各動物の特徴と曲想を関連づける。 ・音楽を形づくっている要素のうち、速度、音色、リズムにとくに着目し、各動物を表現するための工夫について感受し、言葉で表現する。	ア, イ, エ
2	○ 組曲『動物の謝肉祭』の全14曲を鑑賞する。 ・それぞれの動物を表現するために、音楽を形づくっている要素にどのような工夫がされているか感じ取りながら鑑賞する。	ア, エ

6 本時（1／2）

（1）目標

各動物の特徴を表現するために、音楽の要素（速度、音色、リズム）にどのような工夫がされているか感受し、それを言葉で表現する。

（2）実際

過程	時間	学習活動	指導上の留意点
導入	15	<p>1 組曲のうち「亀」,「大きな鳥かご」,「カンガルー」の3曲を聴く。</p> <p><ワークシート></p> <p>①3曲がそれぞれ何の動物を表現しているか</p> <p>②理由（その動物のどんな姿を表していたか）</p> <p>2 1で記入したことをグループで共有する。</p> <p>3 2を全体で共有する。</p> <p>・他者の意見もワークシートに書き込む。</p>	<p>・タイトルは伏せた状態で、3曲はそれぞれどの動物を表しているか予想させ、その理由も考えさせる。（ア）</p> <p>・他者の意見を否定しないよう促す。</p>
展開	25	<p>4 「音楽を形づくっている要素」とは何か知る。</p> <p>・速度（速い、遅い、その変化など）</p> <p>・音色（楽器の種類、声など）</p> <p>・リズム（独特なリズム、拍子など）</p> <p>など</p> <p>5 1の②で記入した「理由（その動物のどんな姿を表していたか）」について、音楽の要素（速度、音色、リズム）に着目し、根拠を持って具体的に説明する。</p> <p><ワークシート></p> <p>③着目した『要素』とその動物の特徴の関係</p>	<p>・「ヤマハ音楽教室」のCMソングを例に、実際に聴かせながら音楽の要素について知覚させる。</p> <p>・再び3曲聴かせ、音楽の要素（速度、音色、リズム）をどのように変化させて各動物を表現しているか感じ取らせる。（ア、イ、エ）</p>
終末	10	<p>6 5を全体で共有する。</p> <p>7 次回の学習内容について予告する。</p> <p>・6の続き</p> <p>（・組曲『動物の謝肉祭』について）</p>	<p>・CDを適宜再生・停止しながら、全体で共有させる。（ア、エ）</p>